



▲幌別町の海岸で美しい姿を見せる朝日

◀顧客の希望に添えるよう、熱心に仕事に取り組む井元さん



▲世代間交流など、初めて会った人ともすぐに仲良しに



知り合った方から声を掛けられました。気軽に声を掛けてもらえるのはうれしいことですね」。

福原さんは、登別市には気さくで温かい人が多いと話します。移住してきた当時、仕事の進め方に思い悩んでいたそうです。民間の事業所から市役所への転職。それまでの仕事の仕方では業務をうまく進められないことも多かったことを察した上司や職場の同僚が、福原さんの能力を引き出し円滑に仕事に取り組めるよう配慮してくれて救われたと話します。

「困ったことがあったら、周りの人がすぐ気に掛けてくれる。登別は、心温かい人が集まった、人を一人にさせないまちだと思います。心から大好きなまちです」と、笑顔で話してくれました。

あらためて気づいたふるさと登別の良さ

井元耕さんは登別市出身のデザイナー。高校卒業後、東京の大学で美術を学び、クリエイターとして活躍してきましたが、20歳代後半の時に帰郷しました。現在は、東京での経験を生かして市内にデザイン会社を立ち上げ、企業の『広告』などを制作する仕事をしています。

井元さんは、登別市でデザインの仕事を始めた頃、東京と登別の違いに少し戸惑ったそうです。

「東京で仕事をしていた頃は、依頼企業の広報担当者や打ち合わせをすること

がほとんどでした。登別市では、企業の代表の方と直接打ち合わせすることが多い。最初は驚きましたが、細かなことは気にしない気さくな方ばかり。直接会って思いを聞くことができるので、より希望に沿った広告などをつくることができていると思います」。



井元 耕さん

井元さんは、仕事を通じて多くの人と関わっていく中で、あらためて登別市に暮らす人々の人柄の良さに気付いたと話します。

「登別市は、北海道のイメージ通り大らかな方が多い。一方で観光地でもあるため、人馴れた方も多い。東京では人との関わりに距離を感じていました。登別は親近感のわく方が多いです」。

登別市の魅力について井元さんに尋ねたところ、「いろいろとあるけれど、最大の魅力は人の良さだと思います」という答えが返ってきました。

まちの魅力を発信してみませんか

福原さんと井元さんから聞いた登別市の魅力。それはどちらも登別市の『人』でした。移住者の視点で登別の魅力を発

信している福原さん。ふるさと登別に戻り広告の仕事をしている井元さん。魅力の発信、広告という『伝える』ことを仕事にしている二人が、登別の魅力について『人』という同じ答えを出したことは、とても印象に残りました。

私自身、思い返してみると、登別市に来てから、「うれしい」や「楽しい」と感じる瞬間にはいつも、まちの誰かがそばにいた気がします。近所でお世話になっている方、親切な店員、趣味を共にするサークルメンバー、そして今回、快く取材を受けてくれた二人。

登別市に住む人がまちの魅力だということは、このまちに長く住んでいる皆さんほど気付きにくいことかもしれません。同じように、地元の人だからこそ気付かない魅力が、まだまだ隠れているのではないのでしょうか。今一度、登別市を見つめ直し、今まで気付かなかったまちの良さを探してみませんか。

福原さんは取材の中で、「縁もゆかりもない土地に移住を考える人は少ない」と話していました。登別市の皆さんが、まちのさまざまな魅力をあらためて発見し、市外の知人などにその魅力を伝える。そうすることで登別への縁やゆかりが生まれ、移住を考える人が増えるかもしれません。さまざまな魅力のある登別市を、より活気あふれるまちにしていこう。そのために、皆さん自身で、ふるさとをPRしてみませんか。